

# 上関原発を建てさせない山口県民大集会 「賛同人」のみなさまへ

上関原発を建てさせない山口県民大集会「賛同人」にご応募いただき、ありがとうございます。おかげさまで、集会は2500人の参加で成功し、初めて参加されたみなさんから「原発反対でこれだけの人数が集まるとは思わなかった。元気をもらえた」との声がよせられています。ありがとうございました。なお、賛同人は集会終了後、4月10日時点の集計で1443名、賛同募金は2,806,800円となっています。ご協力、まことにありがとうございました。

賛同金は、集会成功のために有効に活用させていただきました。なお、余剰金のなかから昨年同様に上関原発を建てさせないために35年間にわたって困難な中で頑張っておられる「祝島島民の会」に寄付させていただきます。また、手持ちの余剰金は、これからもつづく上関原発をめぐる緊迫した情勢に対応できるように、今年から年数回発行を構想している「県民連絡会」としてのチラシの発行などに有効に使わせていただきます。

今後も、みなさんと力をあわせて上関原発を建てさせないために活動してまいります。

## 元気に、かぶよく、楽しく、春の日差しの中



私たちの思い「ボッカ〜ン」と届け!!



「釣れたよ〜」「コロコロかわいいな」



行列のできるアカモク天ぷら

心配された天候も朝の薄曇りから、お昼前には春の日差しが暖かい一日になりました。

メイン舞台は、ジャーメリックさんのオープニングで始まり、那須正幹共同代表の主催者あいさつ、原康司事務局長の基調報告につづいて河合監督、古川さん、赤城さん、のスピーチ。祝島の島民の会や県内各地、県外の団体のリレートーク、県議6人のスピーチとつづきました。

各地の帰りのバスの中では、「みんな納得のいく話で、もっと聞きたかった」との感想が寄せられました。最後を締めくくるパフォーマンスは、昨年までの「NON」から、わたしたちの思い「ボッカ〜ン」と届けとロゴマークを掲げるものになりました。

### 賑やかにパレード

集会のあとのパレードには、畳3枚はありそうな「大幟」や風船、長〜い「横断幕」、「スナメリ人形」などみんなが工夫して参加しました。

パレードのコールも軽快なリズムにのせて…

「原発建設 絶対反対」「原発建設 みんなで止めよう」「日本のどこにも 原発いらぬ」とアピールしました。

### マルシェも大盛況

マルシェの出店は、ブースと店舗が36店。キッズ・コーナーには、元気で楽しそうな子どもたちの笑い声が…。上関の自然を守る会の「アカモク天ぷら」「若布のしゃぶしゃぶ」には長い行列。河合監督も「オッ これは美味しい」としばらくお箸が止まりません。赤城さんの展示コーナーと映像を使ってのお話は、ドローンを使った映像が迫力と説得力があります。午後3時の終了時間を過ぎても熱心に聞き入る姿がありました。

食べ物が少なかったとのご意見をいただきました。申し訳ありませんでした。これからのイベントで改善に努力します。

那須さん、原さん、河合さん、古川さん、赤城さんの挨拶、報告、スピーチの大要は裏面に掲載。

# 共同代表、ゲストのスピーチの概要を紹介します

## 那須正幹共同代表・主催者あいさつ

原発をめぐる状況は好転していません。福島原発では、最新鋭ロボットが投入されても放射線で次々ダウンしており、廃炉がいつになるのかも見通せない状態。さらに、放射性廃棄物の処理の方法もない状態で新規原発はあり得なません。東芝の株を持ってなくてよかったと思います。東芝が原発の関係で7000億円もの損を出していることは、原発は儲けにはつながらないことを示しています。それでも原発をつくらうとする人たちがいます。黙っているわけにはいけません。

## 原康司県民連絡会事務局長・基調報告

きょうの集会は、県内3ヶ所での地域集会、17万枚のチラシ配布などの集約としての集会です。福島では今なお8万人を超える人々が避難生活を送っています。福島の人々悲しみや苦しみが癒される日の来ることを願っています。昨年8月3日、村岡県知事は埋め立て免許延長に許可を出しました。事実上の容認であり、上関原発建設への大きな一歩を踏み出したこととなります。民主主義への挑戦だと思えます。県議会も自公などが促進決議を上げました。抗議しても変わらない事態に怒りと悲しみを感じます。しかし、諦めや無関心を蔓延させてはいけなく強く思えます。本来の民主主義を取り戻したとき、おバカな原発をとめられると思えます。一人ひとりが思いを表に出しましょう。自分でできることをしましょう。祝島のお母さんたちが「わたしたちはこの海に1000年生かしたもらった」といった言葉が忘れられません。自然を壊してはいけません。きょうが上関原発をとめる希望の日になるとともに、笑顔で楽しめる日になるように願っています。

## 河合弘之監督・弁護士のスピーチ

いま福島は大きく2つに分かれています。「帰還できないところ」と「原発事故は忘れたことにして復興にむけさせる地域」に分断されているのです。福島で何が起きているか。放射線による健康被害です。子どもの甲状腺ガンは本来100万人に1人の発症なのに、福島では38万人の調査で185人発症しています。手術も145人。発症率は500倍です。それでも国や県は原発事故との因果関係は考えにくいと言っています。「これまでちゃんと調べていなかったが今度は調べたからだ」と非常識なことを言ってなんとしても放射能の影響だと認めません。再稼働などのためです。しかし、経済界も原発から手を引き始めています。東芝の事態は身から出た錆です。福島原発は東芝がつくったんですから。わたしたちは勝つまでたたかいます。しかし、「果報は寝て待て」ではだめです。自然エネルギーの活用が進んで原発がいらなくなるにはある程度時間がかかる。その間にもう一度原発事故が起これば全部パーです。再稼働やましてや新設をとめることです。一喜一憂しないで、粘り強く、再稼働許さぬ、新

規原発許さぬために頑張りぬきましょう。

## 古川好子・福島の女たちのスピーチ

わたしは避難民です。双葉郡から会津に避難しています。避難というのは、今日どこに寝ていいかわからない。何を食べていいのかわからないと言うことです。ぜひ福島の人のお話を聞いてみてください。この4月に「もう大丈夫だから」と避難解除されました。私はビビりだから帰る気になれません。原発事故で失われるのは、普通の暮らしです。隣にいるはずの家族がいない、友達は電話の向こう側にしかいない。除染されたから大丈夫だと言うなら、安倍さん夫妻に福島に住んでもらって大丈夫だと言ってほしい。

## 赤城修司・写真家・美術教員スピーチ

お招きを受けた時、非常に悩みました。日本をおおう雰囲気を考えるからです。私は、写真や漫画で福島のすべてを記録することが歴史的資料として必要だと考えています。私の写真を裏のテントに展示しています。そしてお話をさせていただきます。ぜひお越しください。福島市では、学校、公園につづいて10万戸すべて住宅の庭、道路、側溝の除染が終わりました。いま住宅隣接の山の表土剥ぎ取りが進んでいます。原発はなくて当然のものでないと困ります。

## 清水敏保共同代表・祝島島民の会報告

今日このように集まっただけは、原発の地元としてありがたく勇気づけられます。82年に原発計画が浮上して35年。島内デモは、いまも毎週月曜日に行っていて1,271回になりました。中電本社への抗議行動、国や県への申し入れ、たくさんの裁判闘争、みなさんのご支援に心から感謝しています。6年前の福島原発事故のあと工事は中断しています。しかし、昨年の県知事の埋立免許延長許可、県議会の要望決議を見れば、国も県も終電もあきらめていません。上関での運動も容易ではありません。白紙撤回をさせるまで、みなさん力を合わせて頑張りましょう。

## 大集会のDVDができます (頒価200円)

県民大集会の様子を記録したDVDが近くできます。元民放記者方が約50分に編集したものです。

視覚障がい者の西本さんの三段池舞台での「原発いらぬ 絶対つくらせない」の歌声で始まり、集会在どんな雰囲気で行われたかわかるDVDです。

メインステージの登壇者のスピーチの主要部分が収録されています。

ダビングして普及していただいて構いません。注文はできるだけ地域や団体でまとめていただくとありがたいです。